

# 文化交流の交差点「栃木」の 起源を縄文時代に探るⅤ



國學院大學栃木短期大学



# 令和5年度の活動

- |                           |             |
|---------------------------|-------------|
| 1. 第1回講座・ワークショップ          | 8月5日        |
| 2. 中根八幡遺跡発掘               | 8月21日～8月28日 |
| 3. 現地説明会・縄文まつり            | 8月27日       |
| 4. 速報展（参考館・市役所）           | 11月～12月     |
| 5. 岩宿博物館見学<br>・岩宿フォーラムの参加 | 11月4・5日     |
| 6. 第2回講座・ワークショップ          | 11月11日      |
| 7. 第3回講座・ワークショップ          | 12月9日       |



## 遺跡概要

- ◆ 栃木市藤岡町に位置する縄文時代前期～晩期(約7000年前～3000年前)の遺跡
- ◆ 後期～晩期を中心とした環状盛土遺構と推定される遺構
- ◆ 2015年から発掘調査を開始(今回9次調査)



# 上空から見た中根八幡遺跡

中根八幡神社



今回調査場所(C区)

# 今年度の調査について

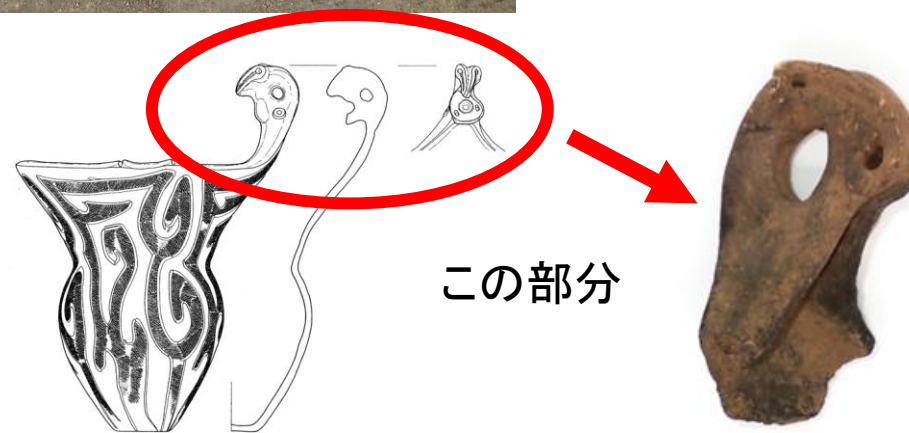
- ◆ 今年度は、前年度に引き続き盛土遺構の存在が推定される遺跡東端部分(C区トレンチ・C区北トレンチ)の調査を実施。
- ◆ C区トレンチの北半分に設定したサブトレンチと、C区北トレンチでは、遺物包含層を掘り下げた。そして、地山のローム層面で縄文時代後期初頭(称名寺式期)のピット群を検出。これは住居の一部の可能性がある。
- ◆ ここからは、後期初頭を中心とした土器片が多数出土。出土遺物の中で特筆すべきものとしては、後期初頭(称名寺式期)のトリを模した把手がある。この把手は栃木県内を中心に分布するものである。ほかには石庖丁に類似した石器も検出した。

# 発掘調査のようす①

## トリを模した獣面把手



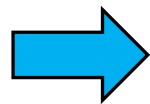
- 後期初頭(称名寺式)では、トリを模した獣面把手がつく
- 栃木地域を中心に分布する土器





## 発掘調査のようす②

- 縄文時代後期初頭のピット群を検出
- 住居の一部の可能性がある



これをもって中根八幡遺跡  
の調査はすべて終了!!



# 出土した遺物



後期初頭の土器(称名寺式)

石庖丁を模した石器



# 現地説明会

- 8月27日(日)に現地説明会と縄文まつりを開催しました。
- 炎天下の中、たくさんの方々が現地説明会に参加しました。



**KOKU TOCHI** **な ね は ち ま ん**  
**中根八幡遺跡発掘**

2023年8月21日(月)～28日(月)

**現地説明会・縄文まつり**  
**8月27日(日)10時～15時**  
みんな来てね!!

遺跡説明・遺物展示  
縄文なべ試食・縄文クッキー作り・石器で料理!  
縄文の音体験 ♪ 石や角をたたいてリズム演奏

**問い合わせ**  
國學院大學栃木短期大学  
日本文化学科  
日本史フィールド  
0282-22-5511 (代)

**場所**：栃木市藤岡町中根330 中根八幡神社境内  
中根八幡遺跡の位置や昨年の発掘成果についてはホームページをご覧ください。  
<https://www.kokugakuintochigi.ac.jp/tandai/>  
**主催**：國學院大學栃木短期大学・奈良大学文化財学科  
**協力**：中根地区・栃木市教育委員会  
本事業は栃木県大学地域連携活動支援事業（文化交流の交差点「栃木」の起源を縄文時代に探るV）の一環として実施します



# 縄文まつり①



のぼり旗はphotoshopで自作



縄文の音の体験(人間教育学科)



縄文衣装を着た短大生



大勢の人が来場(200人)



縄文衣装を着た参加者



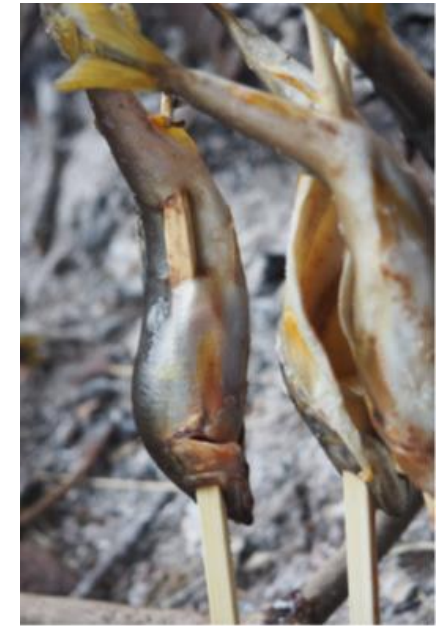
## 縄文まつり②



縄文なべ(鹿&豚)



栗とクルミで作った縄文クッキー



アユとヤマメの塩焼き



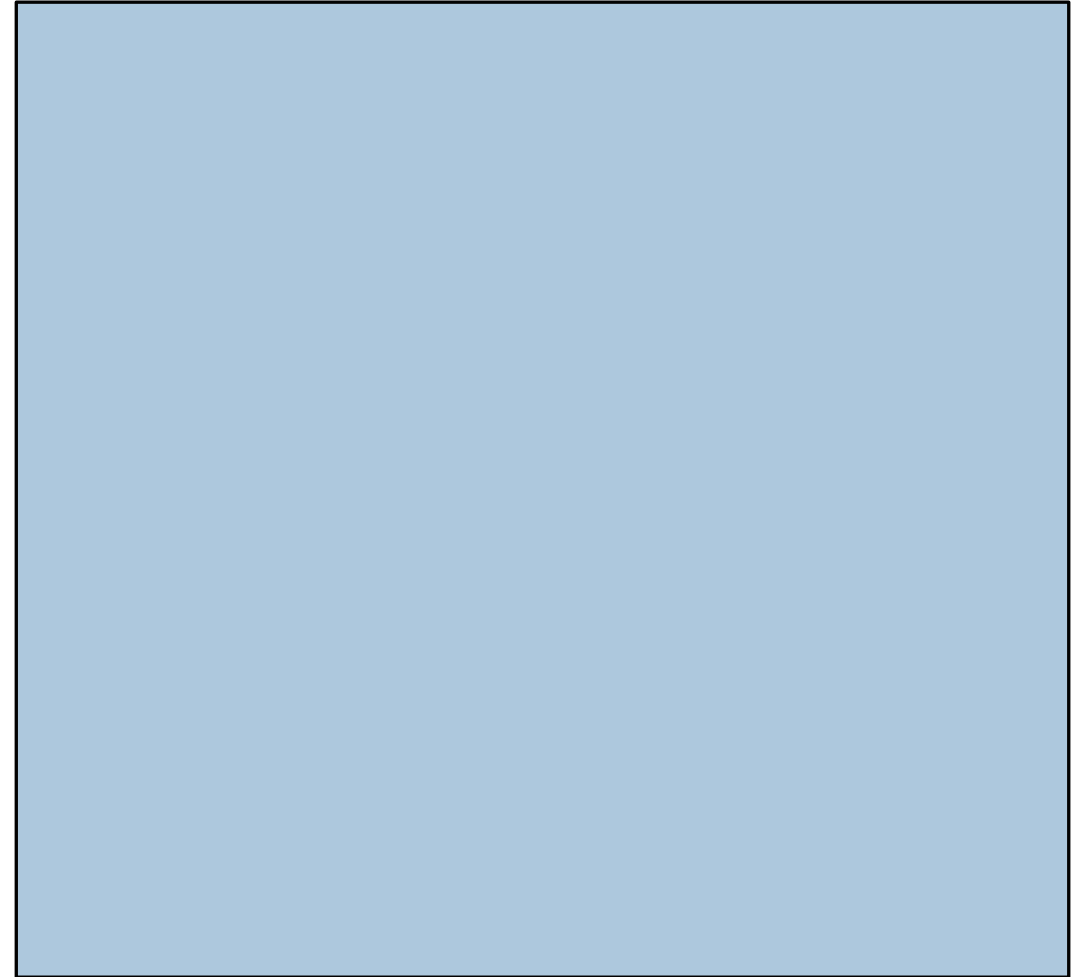
黒曜石のナイフで調理体験





# 下野新聞に掲載されました！

- ◆「人々が長期間にわたり造成を繰り返して生活していたこと、見つかった黒曜石から東北や関西地方とも交流があったことを確認できた。」
- ◆本校の大工原豊准教授は「今後はこの遺跡にとどまらず渡良瀬縄文文化圏の実態を明らかにしていきたい。縄文まつりは来年以降もレガシーとして続けていきたい」と話している。  
(下野新聞記事より)



2023年8月29日(火)下野新聞



# 学 習 講 座

## 「栃木の縄文時代をもっと知ろう」

- 8月5日(土)、11月11日(土)、12月9日(土)に講座・ワークショップを開催
- 栃木市市民交流センター
- 参加者 約40名



学習講座

「栃木の縄文時代をもっと知ろう」



國學院大學栃木短期大学が実施している中根八幡遺跡発掘調査に関連する事業です。この地域には「渡良瀬縄文文化圏」が存在していたことが分かってきました。その内容を知っていただきたいと思い、この講座を開催することにしました。各分野の考古学研究者が分かりやすく解説します。

- ◆ 第1回講座・ワークショップ 令和5年8月5日(土) 13:30~16:30  
「栃木県南地域の縄文中期の土器」 講師：塚本 師也(益子町教育委員会学芸員)  
「縄文土器の文様施文の体験」 講師：植田 真(國學院大學文学部兼任講師)
- ◆ 第2回講座・ワークショップ 令和5年11月11日(土) 13:30~16:30  
「渡良瀬川流域の縄文時代後・晩期の土器」 講師：林 克彦(五島美術館学芸部参与)  
「縄文土器の耳飾りづくり」 講師：角田 祥子(榛東村耳飾り館係長・学芸員)
- ◆ 第3回講座・ワークショップ 令和5年12月9日(土) 13:30~16:30  
「栃木市内の縄文遺跡」 講師：芹澤 清八(シン技術コンサル技術顧問)  
「黒曜石の石鏃づくり」 講師：大工原 豊(國學院大學栃木短期大学)



会場：キョクトウとちぎ蔵の街楽習館(栃木市市民交流センター)

定員：各講座30人(参加費無料)

申込先：國學院大學栃木短期大学日本史フィールド(大工原)

電話：0282-22-5511

メール dai kuhara@kokugakuintoshigi.ac.jp

申込締切：講座開催前日

主催：國學院大學栃木短期大学 協力：栃木市教育委員会文化課

この講座は令和5年度栃木県大学地域連携活動支援事業「文化交流の交差点「栃木」の起源を縄文時代に探るⅤ」の活動の一部です。



# 第1回講座・ワークショップのようす

- 講座「栃木県南地域の縄文中期の土器」  
講師：塚本師也 先生（益子町教育委員会）

- ワークショップ「縄文土器の文様施文の体験」  
講師：植田 真 先生（國學院大學兼任講師）



平川遺跡の調査成果

- 地域差が大きく、複数の系統が併存する中期中葉から、広い地域にて類似した土器を使う中期後葉への過渡期。

B.P. 5,000		B.P. 5,300				B.P. 5,600		B.P. 6,400	
五雲ヶ谷式		野玉谷式				加賀利式			
Ⅰa式	Ⅰb式	Ⅱ式	Ⅲ式	Ⅳ式	Ⅰ式	Ⅱ式	Ⅲ式	Ⅳ式	
(七敷内系土器)									
(横溝系)									
(大谷系土器)									
(滝ノ上系) (津波中系)									
北沢7a式	北沢7b式		北沢8a式	北沢8b式	北沢9式	北沢10式			



Copyright © 2023 Makoto Ueda All Rights Reserved

國學院大學栃木短期大學学習講座2023  
「栃木県の縄文時代をもっと知ろう」  
縄文土器の文様施文体験

國學院大學文学部兼任講師  
植田 真  
「まんがでわかる考古遺跡発掘ワーク・マニュアル」発売中！  
発行者：三ツツミ文化センター 発行所：国学院大学 印刷所：国学院大学印刷局



平川遺跡出土土器

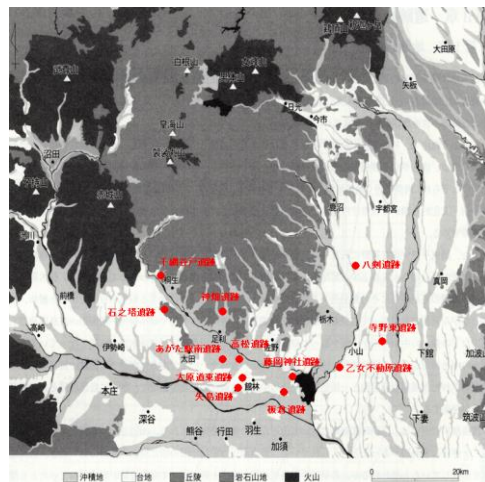


作成した縄文原体(羽状縄文)

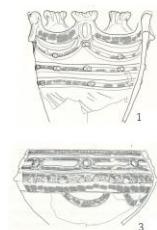


# 第2回講座・ワークショップのようす

- 講座「渡良瀬川流域の縄文時代後・晩期の土器」  
講師: 林 克彦 先生(五島美術館学芸部参与)



安行3a式 1270~1150 cal BC頃



縮尺不同



あがた駅南遺跡

- ワークショップ「縄文時代の耳飾りづくり」  
講師: 角田祥子 先生(榛東村耳飾り館館長・学芸員)



私たちが作った耳飾り



# 第3回講座・ワークショップのようす

- 講座「栃木市内の縄文遺跡」  
講師：芹澤清八先生（シン技術コンサル技術顧問）



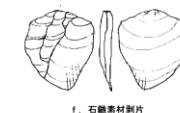
- ワークショップ「黒曜石の石鏃づくり」  
講師：大工原 豊先生（國學院大學栃木短期大学）



## 2. 石鏃の作り方

### ① 素材剥片の剥離

原石を手に持ってそれを石で直接たたいて、剥片を剥離する。たたいた瞬間に手の力を緩めるのがコツ。500円硬貨より少し大きなサイズの縦横比の同じくらいの剥片（f）を剥離する。



f. 石鏃素材剥片

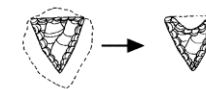
### ② 押圧剥離でかたちを整える

#### a. 片面加工法（初心者向け）

・素材剥片を水平に置いて、縦に直角（釘のついた工具）を押しつける（g）。三角形が菱形になるように水平に回転させながら押圧剥離を続ける（h）。  
・三角形が菱形になったら、ハート形にえぐり込みを入れて完成（i）



g. 水平に置く方法



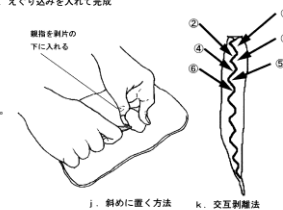
h. 三角形にする



i. えぐり込みを入れて完成

#### b. 交互剥離法（一般向け）

・素材剥片の下に親指をいれて、斜めになるように置く（j）。  
・裏→裏→裏・・・の順に側面からみるとジグザグになるように交互に剥離してゆく（k）。  
・剥離の角度が一定になることがポイント。素材剥片が水平にならないように注意。  
・この方法がマスターできれば、縄文人と同様にさまざまな形の剥片から石鏃を作ることができる。ただし、仕上がりがやや薄い石鏃になってしまう。



j. 斜めに置く方法

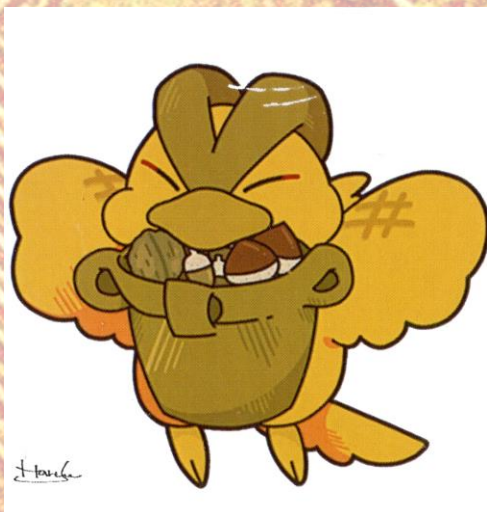
k. 交互剥離法





# マスコットキャラクター製作

- ・研究会で考古学のマスコットキャラクターを製作
- ・キャラクターをデザインしたシール、マグネット、しおりをつくり、講座・ワークショップなどで配布



とりまる



かえんまる



やじりん



たまこ

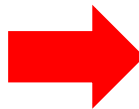


# 学生研修・岩宿博物館見学および岩宿フォーラム参加

- ・11月4・5日に開催された岩宿フォーラムに研修として参加  
テーマ:「更新世末期から完新世初頭における遊動的狩猟採集民」  
基調講演:「縄文化はなぜ、どのように始まったかー旧石器-縄文移行期の人間行動と生態行動ー」  
講師 谷口康浩先生 (國學院大學教授)

パネルディスカッション  
本学大工原先生が司会者のシンポジウム

私たち学生



基調講演のようす



パネルディスカッションのようす



# 中根八幡遺跡第9次発掘調査速報展

・12月12日～12月26日の間、栃木市役所4階展示コーナーにて展示



展示作業のようす



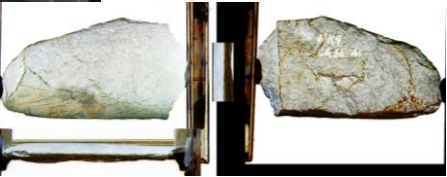
展示のようす



# 中根八幡遺跡遺物整理作業のようす



ポリ袋に転写した拓本



石器実測



土器の拓本採拓



大工原先生が発明した拓本マシーン



望遠レンズで撮影した土器(ネガ)



土器への注記



望遠レンズを使用した土器の実測



# 今後の予定



1. 中根八幡遺跡は、総括報告書を作成するための遺物整理作業を継続して実施する。
2. 後・晩期の「渡良瀬縄文文化圏」の実態解明に向けて、土器・耳飾り・黒曜石の分析を継続して実施する。
3. 中根地区では、発掘調査のレガシーとして「縄文まつり」を継続して実施する。
4. 「渡良瀬縄文文化圏」の起源を解明するため、(仮称)聖地公園遺跡の発掘調査を実施する。
5. 縄文文化の内容を広く周知させるために、学習講座・ワークショップを継続して実施する。



# 栃木市教育委員会文化課のコメント

- ・地域の歴史を解明され、その成果が地域の宝となり、意義深い活動となっています。遺跡周辺にお住まいの住民の方々だけでなく、市内の様々な地域にお住まいの方にとっても、本活動への参加を通して、当時の歴史や文化への驚きとともに、地域愛を持つことができました。
- ・根気のいる発掘調査に加え、遺跡近隣の方々も協力したイベントが実施され、地域との連携が大きく広がりました。また、講演会やワークショップが多く開催され、本市の歴史的特徴の一端が明らかになり、より多くの方に知って頂いたことで、地域の魅力がさらに高まりました。
- ・本活動は、関係人口の増加や地域の魅力が高まることに加え、遺跡を保護する大切さも伝わり、本市の文化財保護の上でも大変効果がありました。今後も調査から分かった新たな成果の発表や地域と連携した普及活動の実施に期待しております。